

令和7年3月4日

市文化財保護審議会が文化財指定を答申 ～「土湯伝統こけし製作技術」を市指定無形民俗文化財に～

「土湯伝統こけし製作技術」を市指定無形民俗文化財とすることについて、福島市文化財保護審議会（会長：磯崎康彦）に諮問しておりましたが、3月4日、同審議会から指定するよう、答申が提出されました。

名 称 土湯伝統こけし製作技術

種 別 福島市指定無形民俗文化財

保護団体 土湯伝統こけし製作技術継承の会（会長：阿部国敏）

【指定理由】

土湯という山間地域に生活のなかで、炭焼きの原料である木材を利用してこけしづくりを始めたとされ、この地域の特性が顕著に現れている。

土湯という山間地に生きた人々の生活文化であり、その歴史を知るうえで貴重である。

【今後の予定】

令和7年3月下旬 指定告示、指定書交付予定（別途プレス予定）

本指定案件を含め、市の指定文化財は75件となります。

担当：文化振興課

課長 齋藤、郷土史料室長 星

文化振興課：電話 024-525-3785（直通）

土湯伝統こけし製作技術

○ろくろ絵付



紙やすりやトクサで磨き上げた後、ろくろの回転を使い、胴体にろくろ模様を描く。
左は「返し口ク口模様」。土湯伝統こけし独自の描彩の技法

○顔絵付



頭頂部「蛇の目模様」を描き、「かせ」といわれる髪飾り、クジラ目にたれ鼻、おちょぼ口を描く。

※左は絵付けが完成したもの

○完成



土湯伝統こけしの特徴

○次の形のものがある。

- ・エンタシス型 — 胴が比較的細く、中央部がかすかにふくらむもの
- ・太子型 — 台座の上がくびれていて胴が膨らんだ形をしているもの



○頭が小さい。

○首が回る。

○頭頂部に「蛇の目」という黒い輪、前髪の両側に「かせ」と呼ばれる赤い髪飾りが描かれている。

○目は「鯨目(くじらめ)」と呼ばれ、鼻は「垂れ鼻」で、口は「おちょぼ口」で総じて優しくかわいらしい表情である。

○胴はロクロ模様を主として描き、「返しロクロ」技法による描法は土湯伝統こけしの大きな特色である。